

PET センター

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

- 井上 武(画像センター長、PET センター長、地域医療連携室副室長)
- 石丸 良広(放射線科主任部長、画像センター副センター長)

2. 認定資格取得(2026年3月時点)

資格名	資格取得者
日本医学放射線学会放射線診断専門医	井上武、石丸良広
日本核医学会核医学専門医	井上武
日本核医学会 PET 核医学認定医	井上武
日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医	石丸良広

3. 運営方針

- 高度先進医療機器、技術による信頼性の高い医療を提供し、がんの早期発見、早期治療と併せて、病巣の拡がりを正確に診断することで、体に負担の少ない医療を目指します。
- 病院、診療所との機器の共同利用等を通して、連携の強化を図り、地域医療への貢献を推進します。
- 関連機関との共同研究等による、医療水準のさらなる高度化を目指します。
- 実施に際しては、関係する診療部門、診療技術部門と協力して効率的な運用を行います。また、利用者のニーズに応えられる、新しい検査手技・方法にも積極的に対応し、治療に際しての選択肢を広げます。

4. 実績

当センターは2006年3月に愛媛県内初のPET施設として設立されました。サイクロトロンを有し、近年、がん診療に必要不可欠な18F-FDG 検査(がん診断)のみならず、13N-アンモニア(心筋血流評価)等の専門性の高い検査が可能な、愛媛県で唯一の施設となっています。

高度で信頼性の高い専門性で、依頼医、患者さんに他の検査では得難い、より有用な医療情報を提供すること、他の医療機関との連携を通して、地域医療に広く貢献することに日々努めています。

当院の健康診断センターは2016年に閉鎖されましたが、がん検診としてより多くの方にPET-CT検査を受けていただけるように、PETがんドックを当センターで引き続き行っています。またJA厚生連と連携してPETドックを行っています。現在までのがん発見率は2.5%と、思わぬ『がん』が発見された受診者からの感謝の言葉をいただくことも少なくありません。

保険診療としては現在、18F-FDGでは『早期胃がん以外の全ての悪性腫瘍』『悪性リンパ腫の治療効果判定』『心サルコイドーシスの評価』『大血管炎の活動性評価』『虚血性心疾患の心筋viability評価』『難治性部分てんかん』となっています。大半は悪性腫瘍の病期診断で、腫瘍の良悪性評価や悪性リンパ腫の治療効果判定、他の固形がんの再発診断が主な役割となっています。

13N-アンモニアでは『虚血性心疾患』で薬物負荷による心筋血流の絶対値測定、心筋血流予備能測定は他の検査では評価でき

ない心筋の血流状態を測定するゴールドেনスタンダードの検査です。

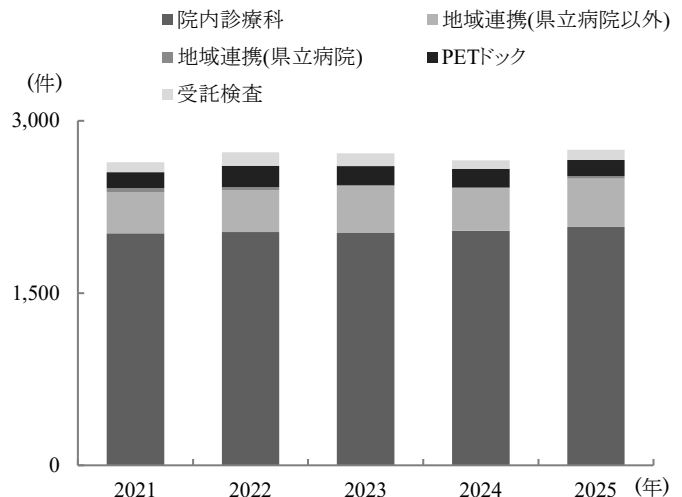
脳アミノ酸(アキュミン)PETは神経膠芽腫の切除範囲の正確な評価を目的として2024年10月から開始しました。

軽度認知障害(MCI)および軽度の認知症患者の治療前、治療後評価を目的とするアミロイドPETを2025年5月に開始し、愛媛県内から多くの検査を受け入れています。

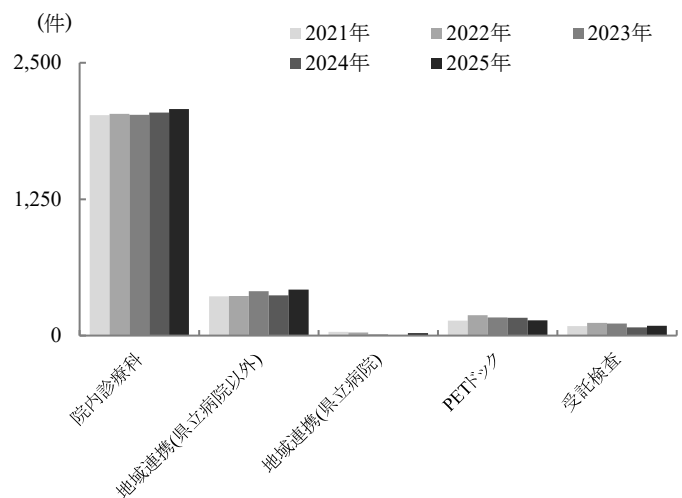
■ PET-CT 検査数

区分	2021	2022	2023	2024	2025
院内診療科	2,020	2,032	2,023	2,043	2,075
地域連携(県立病院以外)	360	364	407	370	421
地域連携(県立病院)	34	27	11	5	23
PETドック	138	186	166	163	140
受託検査	86	116	111	75	90
合計	2,638	2,725	2,718	2,656	2,749

■ PET-CT 検査数の年度推移



■ PET-CT 検査ごとの比較



■ 月別実績

	実稼働 日数	PET がん ドック	地域連携			中央病院		受託検査	合計	1 日平均
			県立病院	その他	アミロイド	FDG	アンモニア	JA 厚生連		
1 月	19	8	1	29	0	170	9	2	219	11.5
2 月	17	5	0	29	0	143	7	2	186	10.9
3 月	20	12	1	26	0	161	9	8	217	10.9
4 月	21	15	3	31	0	172	5	4	230	11.0
5 月	19	10	2	25	1	172	7	11	228	12.0
6 月	21	9	1	43	2	163	14	10	242	11.5
7 月	22	11	0	37	7	175	12	13	255	11.6
8 月	19	13	1	29	4	168	15	6	236	12.4
9 月	20	15	7	29	5	180	11	15	262	13.1
10 月	22	13	4	43	11	174	3	7	255	11.6
11 月	17	16	3	30	5	148	4	4	210	12.4
12 月	20	13	0	20	15	141	12	8	209	10.5
合計	237	140	23	371	50	1,967	108	90	2,749	11.6

■ FDG-PET ドックでのがん発見総数

- ・ 検査総数:6,761件(2016年4月～2023年12月)
- ・ 発見数:170件
- ・ 発見率:2.5%

疾患	PET-CT 陽性	PET-CT 陰性
甲状腺がん	24	
大腸がん	19	
肺がん	37	
前立腺がん	8	3
胃がん	6	5
乳がん	9	1
膵がん	10	1
悪性リンパ腫	9	
子宮がん	6	1
卵巣がん	1	
口腔がん	1	
喉頭がん	1	
原発性肝がん	3	
食道がん	3	
腎がん	9	
肛門がん	1	1
膀胱がん	1	1
白血病		1
胆のうがん	1	
胸腺がん	1	
その他	6	
合計	156	14

(2) 地域医療連携の推進

松山医療圏のみならず、愛媛県内、さらには県外からも PET-CT 検査依頼を数多く受けています。地域医療連携室との協力のもと、より多くの検査依頼に、できるだけ早期に対応できるよう取り組みます。

(3) 13N-アンモニア PET

当センターにおいて 13N-アンモニア PET-CT 検査が 2014 年 3 月より、四国で初めて保険診療可能となりました。心不全、虚血性心疾患が増加している現在において、正確な心筋血流の評価が治療戦略に強く求められており、13N-アンモニア PET-CT 検査はそれに応えることのできる検査となっています。当センタースタッフはもちろんのこと、循環器内科をはじめとした他の診療科や関係部署等が一丸となって、正確でより質の高い医療を提供できるよう、情報収集と研鑽に努めます。

(4) アミロイド PET 検査

軽度認知障害(MCI)、軽度認知症の治療前、治療後評価を目的とするアミロイド PET 検査を地域連携施設として広く受け入れます。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 山田鈴晃、井上武、平塚義康、西山香子、高橋宣貴、川口直人、末盛浩一郎. FDG-PET で特徴的な所見を示した播種性 NTM 症の 1 例. 第 65 回日本核医学学会学術総会. 京都 (2025.11.13-15)
2. 高橋宣貴、大川笑麗、岡田加奈子、平井邦明、西山香子、森千尋、平塚義康、岩村卓明、村上忠司、石丸良広、井上武. 血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の FDG-PET/CT 所見の考察. 第 65 回日本核医学学会学術総会. 京都 (2025.11.13-15)

(2) 論文・著書

1. Kentaro Ohara, Naoto Kawaguchi, Hideki Okayama, Hitomi Ueda, Ryutaro Ueno, Kuniaki Hirai, Yuki Tanabe, Megumi Matsuda, Tomoyuki Kido, Takeshi Inoue, Teruhito Kido. Clinical significance of splenic switch-off in adenosine triphosphate 13N-ammonia positron emission tomography in patients without coronary artery disease. Japanese Journal of Radiology 43(7). 1186-1196 (2025.7)

5. 2026 年度目標

(1) 質の向上

高度専門医療部門として、質の高い画像と正確な読影を合わせて、他の検査では得られない、より有用な医療情報を提供します。